

2022年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名： 静岡県

農業委員会名： 袋井市農業委員会

I 農業委員会の状況(2022年4月1日現在)

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 2020 年 7 月 19 日

任期満了年月日 2023 年 7 月 18 日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	16	16
認定農業者	—	10
認定農業者に準ずる者	—	
女性	—	3
40代以下	—	0
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	12	12	12

2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	1,086
農業経営体数	663

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	1,118
女性	455
40代以下	54

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	215
基本構想水準到達者	
認定新規就農者	6
農業参入法人	36
集落営農経営	
特定農業団体	
集落営農組織	

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑				計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	2,260	910				3,170

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

Ⅱ 最適化活動の目標

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	前年度末の集積面積(B)	集積率(B)／(A)
	3,170 ha	1,614 ha	50.9 %
課題	・農家の高齢化、減少の本格化が加速化し、農地が適切に管理されないとの懸念があること。 ・農業者等の話し合いを基に地域農業の将来方針の策定を各地域で進める。 ・生産の効率化が必要であり、スマート農業の展開も含め、分散した農地の集約を加速させる。		

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

農地の集積の目標年度	2030 年度	集積率	80 %
今年度の新規集積面積	92 ha	農地面積(C)	3,170 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	1,706 ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)／(C)	53.8 %

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

(2) 遊休農地の解消

① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	92 ha	62 ha	30 ha
課題	・利用状況調査に多大な時間を要している。判断基準の統一化が困難である。 ・遊休農地の発生及び解消した要因の分析が不十分である。 ・荒廃農地の発生抑止・活用に向けたマッチングの仕組みができていない。		

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	62 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	12 ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	30 ha
--------------------------	-------

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	荒廃農地を「知る・整理する・活かす」の3点をテーマとし、状況把握については省力化を行い、解消に注力する農地と非農地化を行う農地を整理する。解消については、特に、農業法人等とのマッチングの仕組みづくりを重点として取り組んでいく。
-------------------------	---

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	12 ha
---------------------------	-------

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

現状	令和元年度新規参入者		令和2年度新規参入者		令和3年度新規参入者	
	0	経営体	3	経営体	2	経営体
	0	ha	0.64	ha	0.94	ha
課題	まとまった広大な農地を必要とする稲作などは、農地確保が難しく、新規参入者が進まない					

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

②目標

権利移動面積	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均	
	131	ha	178	ha	183	ha	164	ha
新規参入者への貸付について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積					16.4		ha	

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	5	日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	16	人
			農地利用最適化推進委員の人数	12	人

(2)活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数		6	回
取組時期	取組項目	強化月間の内容	
5月、10月、12月	①	人・農地プランを活用した農地の集積及び集約化。スマート農業の導入。	
7月～9月	②	利用状況調査の実施。	
随時	③	新規農業参入者の掘り起こし及びマッチング。	

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数			回
開催時期	11月	相談会名	農業参入フェア
参加者数	35	開催場所	東京、名古屋、大阪
相談会の内容	農業参入に向けた企業とのマッチング		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)